

醒井地区診療所閉院問題



米原市民報

日本共産党米原市議員
山脇正孝 Tel.52-1093
日本共産党湖北地区議員団
事務局 藤田正雄 Tel.55-1527

<http://www.jcp-maibarashigidan.com/>

コロナ禍、命にかかわる地域医療

前号では、介護保険の値上げ反対討論を掲載しましたので、本号は、3月10日の米原市第1回定例会での「醒井地域の住民が身近に安心してかかる診療所の設置を」と題した山脇議員の一般質問を掲載します。

市長の見解を問う

Q、高齢者世帯が多い醒井地域では、新型コロナ禍のなか、外出の控えや交通手段の問題で、近くに医療機関がないことが命取りになることさえ考えられる。米原市で醒井地域に医療機関がないことは、公平に医療を受ける権利や命の平等にかかわる大問題だ。無投票にはなったが、市長は今回の市長選挙で「市民の命を守る」ことが大切で、だれひとり置き去りにしない」と力強く訴えられた。この立場で、醒井地域に早急に診療所を設置するなど、医療体制確保を検討していた

Q、市としてしましては、市内全体の医療体制を地域的な区分として山東・伊吹地域と米原・近江地域の2医療区域と捉え、それぞれに拠点となる施設を配置して、地域の開業医師の皆さんの協力を得ながら医療体制の確保や充実を図って行くことを考えています。松下医院では、閉院に当たり1年前から診療規模を縮小され、患者約5百人程度の方を順次他の医療機関に御紹介されているところですが、患者の地域構成としては、約8割が醒井地域の方で、残り2割が山東地域や近江地域の方とのことです。

今後、醒井地域の最寄り医療機関となる公設の米

原診療所では、これらの地域の皆さんの医療需要を受けられる状況にあります。更に今後、充実を図ることとしています。醒井地域の医療需要を見込んで検討を進めてまいりました。公設の診療所として確保をしておりますこれらの診療所の御利用をお願いしたいと考えています。また、在宅診療所としてこれらの診療所を拠点とした往診や訪問診療などについても充実を図って行きたいと考えています。

通院手段の改善を

Q、4月以降転院を余儀なくされる方のなかには高齢者が多くいたため、通院困難の方が多くおられると思われる。まいちゃん号利用については連絡時間によっては長時間待たなければならぬことがある。改善はできないか。

診療場所確保と医師派遣は

Q、まず、診療場所を探し、山東診療所や地域包括ケアセンターいぶき、ふくしあ内近江診療所のように、地域医療振興協会などに医師派遣をしていただくのもひとつの方法だ。あらゆる手をつくして努力していただきたいが、どうお考えか。

A、市全体として地域医療体制の確保、充実を図って行く上で、医師の確保は最重要課題と捉えています。

市内2医療地域の拠点となる地域包括ケアセンターいぶきや近江診療所の指定管理者である地域医療振興協会を通じての医師確保については、市としても引き続き努力をしていきます。医師の配置については、市全体の医療需要や各地域の実情に合わせて、地域医療振

雑感

通院手段の改善の答弁の中で「まいちゃん号」の利用についての答弁がありました。昨年10月から地域が東草野エリアまで広がり、新しい運用になっており、乗りこなしのポイントや利用方法について職員が地域に向いて説明する出前講座を設けており、活用いただきたいとしています。まいちゃん号は「区域内での統一料金」と「地域間利用料金」を定めており大変複雑です。たとえば醒井地区から山東西まで利用したい場合「共通停留所」からの乗車は可能ですが、それ以外の停留所間の利用はできません。また区域が広がり、米原駅や近江長岡駅から甲津原まで利用が可能です。スキー客など市外の人も利用されており、このようなことに市民の税金を使うことは問題ではないかと指摘もあります。5月から米原駅東口に新庁舎が開庁します。今こそ地域間料金や市外利用者について見直す時期ではないかと考えます。

